

授業科目

病態運動学実習

【担当教員名】 高木昭輝	対象学年	3	対象学科	理 学
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】

理学療法が対象とする症候群や疾患が呈する機能障害に由来する動きを運動病態という概念から考え
理学療法的治療学としての機能障害回復学へと関連づけて理学療法のアプローチを考えることができる。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】

- 1 一般的な病的機能障害について、その機序を説明できる。
- 2 一般的な病的機能障害について、理学療法的アプローチを学生同士で行うことができる。
- 3 一般的な病的機能障害について、効果的な代償的手段を学生同士で行うことができる。
- 4 基礎的な運動病態について例を挙げて理学療法的アプローチを学生同士で行うことができる。
- 5 運動病態学を含め、広く社会参加、QOLの向上など広範囲かつ柔軟な理学療法的対応を挙げ、説明できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション	1, 2, 3, 4, 5	講義
2	末梢神経系障害に由来するうんどう病態を学生同士で体験する。 (1)	1, 2, 3, 4, 5	講義
3	同 上	1, 2, 3, 4, 5	講義
4	同 上	1, 2, 3, 4, 5	講義
5	ミオパチーの運動病態を学生同士で体験する。 1, 2	1, 2, 3, 4, 5	講義
6	同 上	1, 2, 3, 4, 5	講義
7	同 上	1, 2, 3, 4, 5	講義
8	中枢神経系障害による運動病態を学生同士で体験する (1)	1, 2, 3, 4, 5	講義
9	同 上	1, 2, 3, 4, 5	講義
10	同 上	1, 2, 3, 4, 5	講義
11	呼吸や摂食・嚥下性を運動病態学の観点から学生同士で体験する。	1, 2, 3, 4, 5	講義
12	姿勢制御や運動制御の障害を運動病態の観点から学生同士で体験する。	1, 2, 3, 4, 5	講義
13	高次機能障害を学生同士で体験する。	1, 2, 3, 4, 5	講義
14	まとめ (1)	1, 2, 3, 4, 5	講義
15	まとめ (2)	1, 2, 3, 4, 5	講義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	なし、プリント、ビデオ			
参考書	神経系のリハビリテーション 多重感覚治療法: Shereen D. Farber著、平山頼人、鷲田孝保監訳、協同医学 疼痛のとりえ方 理学療法MOOK 3 鈴木重行、黒川幸雄編集、三輪書店			
その他の資料				

【評価方法】

授業貢献度、出席、発表、期末試験などを総合的

【履修上の留意点】